
呪いの本は子供の玩具 ♪

マルコメ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

呪いの本は子供の玩具♪

【Nコード】

N2387B

【作者名】

マルコメ

【あらすじ】

『悸佳（ケータイ小説HP）×アサゴロモ（僕は使用人〜8人の少女編〜）』がダブルで愛を込めた！？作品♪ハイテンションで連載開始ッ！！親友の秋嘉と夏津倭二人はある日の放課後赤い表紙の本を見つけた。本を開いておどける秋嘉、涙目になり逃げたい夏津倭。二人が見つけた本の中身とは！？ちよっぴりホラーかもなドキドキスクールギャグコメディ！！ラブもあるかも？やっぱり嘘かも！！本を開いて何が起こった！？そのとき、二人の世界は変わった……。

第1話＊トイレの加藤さん＊

それは中2の二学期後半。

俺達の世界は、一瞬にして、一変した。

感想は、超最高。

「……なあ、かつわ夏津倭」

「何、あきよし秋嘉。」

「健全な中学生男子二人が、放課後部活もしねえで図書室整理ってどうよ？」

「超だるい。マジやってらんねえし。帰りてえ。」

夏津倭と秋嘉。

二人は怨静中学の2年生。

縁起の悪い校名の通り、怪奇現象が起こりまくる学校として有名だ。三階トイレで小花さんがリリアンしてるとか二階の西階段の隣の部屋には銀司郎さんが居座っているとかあり得ないような現実的な噂

が盛りだくさんある。

ちなみに、開かずのトイレとゆう、怪奇現象もあった。何故かいつも閉まっている3階の2番目男子トイレ。しかも、たまに、うめき声が聞こえるのだ。嗚呼、恐ろしい。

その怪奇トイレの謎を解くため、夏津倭と秋嘉は例のトイレに向かい…

「マジで、幽霊いんのかな？」

「なに？夏津倭？ビビってる？」

「いやいや、ビビってねえし」

「でもさゝ足、震えてる」

「あ？これ？貧乏揺すりだよ」

どんな貧乏揺すりなのだろうか？

秋嘉は悪魔のような笑顔で、2番目のトイレを蹴った。

「ぬ、ぬおおおう」

やはり、うめき声は聞こえた。

もう夏津倭は死にそうだ。自称貧乏揺すりの速さも、マッハになつてるよ。

「開けるぞ？」

秋嘉は、再び強い蹴りで、トイレのドアを蹴った。

そこにいたのは……

「ぬおおおう！ぬふおっ！」

個室全体に漂う悪臭。あ、夏津倭いま、氣い失いかけた。

「……………用務の……………加藤さん？なにしてんすか？トイレで……………」

秋嘉も、悪臭によって生と死の間をさ迷っている。

怪奇トイレの謎の正体は、用務の加藤さんであった。

「いや、ちよつとね。最近食べた刺し身に当たつてね。トイレがね、たいへ……………ぬおおおおお！大腸があああ！！悪玉菌があああああ！！ふんばれ俺ええ！！」

「死ね」

秋嘉は頭に血がのぼり、加藤の腹を思いきり殴った。いや、あれは、一週間分の排出量になると思うよ？ あんまりリアルにはなすと、ほら、食事できないじゃん。　ってか、こんな回想してる場合ではない。早く本題に入ろう。

ともかく、そんな悪い噂のせいでこの学校は地元でも自慢の恐怖スポットとなっている。

不意に其を思い出した夏津倭が震えだした。

「…夏津倭、顔青いよ。」

「うっさい。」

そして、それのお陰で良くも悪くもやんちゃ盛りの12才男子には人気が高い。

稀に女子も含み。

そして、そんな怨静中学校のモットーは『見ないふり、気付かないふり、知らないふり。干渉しないで平和な生活。』だ。

意味深過ぎて、誰もが一度は息を飲む。

宮藤　秋嘉もそんな好奇心に駆られて入学してきた一人だった。

秋嘉は元々地元人。オカルト、グロ系大好きで、結構自己中心的なB型。

入学したときから夏津倭にベツタリでよく連れ回す。
何でかって…面白いから。

と、色んな意味で便利だから。

夏津倭は春休みに親のいきなりの転勤で、全力で嫌がっているのも聞いて貰えず不幸にも学校から100mしか離れていない家に引越してしまった霊感少年。

『ほら、夏津倭。学校が見えてきたわよ?』

『嫌、絶対嫌だ!!!!校門のところに変な女立ってるじゃん!!
!何かこつち見て南海のしずちゃん並にキモい顔で笑ってるじゃん
!!!!!!』

『よしよし、大丈夫だよ父さんにも見えてるから。』

『いい?夏っちゃん。どんなに嫌な所でも...』

『住めば都っていうでしょ?』だろ?』

『や、.....嫌だアああ嗚呼ああ!!!!!!...!!』

こんな感じで。

何時もはそれなりの事には冷静に対応できるのに、幽霊には強い毒舌家。

靈感があることがバレて秋嘉に捕まった不幸人。

そんな二人が図書室で本整理なんてしている理由。

：教頭のズラを放送で全校にバラし、証拠写真をばらまいたからだ。
部活停止で一週間学校の雑用をさせられている。
それにしても、あの教頭のキレた顔はウケた。最高だよあれ。シ
ヤメにとつといてよかった。

第2話＊赤い女と悪魔さん＊

「本の整理なんか早く終わらせようよ」

「ギャハハハ！マジでウケる！このマンガ！未来のネコ型ロボット最高！！」

「ねえ秋嘉、聞いてる？」

「しかも、猿の尻尾つき少年と戦ってるし！空飛ぶ雲と、空とぶタケトンボで勝負しちゃってるよオイ！！」

「秋嘉……」

「カメハメハーと空気砲」で戦ってるしいゝぎやはははは」

「秋嘉！！！！」

「え？何？なんかいった？」

やっと夏津倭の話しを聞く秋嘉。つてか、前より本棚汚い。

「…秋嘉。俺はな、早くこんな図書室整理なんて終らせて部活行きてえんだよ。見るアレ！！真っ赤な服着たねえちゃんがこつち嬉しそうに見てんだよ！！超怖いんだけど！！！！こんなとこ居たくないんだけど！！！！」

「えー…、俺見えねえし。それよか見るこれ、猿人間が猿んってるしつ。満月つて狼男かよ！！！！」

秋嘉が本を引き抜く度、音を立てて崩れる大量の本。

バッサバッサと本が落ちる音が夏津倭の神経を逆撫でしまくる。

その中の一冊が夏津倭の頭に落ちてきて、瞬間。

ブチッと不吉な音がした。

そして秋嘉は夏津倭に襟を掴まれ絞め上げられる。

「お前マジいい加減にしろよ！！！！マジメにやれやボケえ！！！！…
つてぎゃああああアああ嗚呼！！！！」

キレたと思つた途端、夏津倭は青ざめて叫びだした。

「なに！？え、何かいんの！？！？ちよつと！！夏津倭！？」

「赤い女があああ！！！！何か来た！！こつち来たあ！！なんか笑つてゐるウウウウ！！！！近い近い近い！！！！」

通訳するとさつきこつちを見ていた女がニタリと気味の悪い笑みを浮かべ夏津倭に物凄い速さで近寄つて来たのだ。

俗に言う、ひとめぼれ？

何が怖いって舌舐めずりをしながら手をワキワキとあり得ない速さで動かしまくっていることだ。

幽霊というのもあるだろうが、生身の人間でもかなり怖い。

つか、かなりイツちゃつてゐるっぽい。

「いや！ホント勘弁して下さい！！は？好きになりました、結婚して？無理無理無理！！俺彼女いるからっ！え！？その女を呪い殺す！？おいしいい！やめれ！！！！」

夏津倭は、赤い女を必死に説得しているのだが、秋嘉ビジョンでは、ただの漫才にしかみえない。

「あのー幽霊さん？コイツ、彼女いねえっすよ？」

「ぬおっ！秋嘉いー！！」

ちなみに、赤い女さん怒り狂いだした。つか、盆踊りみたいな発狂のしかただ。

「しかも童貞っ！！」

真つ赤になる夏津倭の顔。秋嘉の背後には、悪魔のようなものが見える。うん。普通さ、守護霊さんとかが、いるけど、コイツの場合には悪魔さんだ。

あ、悪魔が会釈した。意外と礼儀正しい。

「ぎゃああああ！！チューは駄目！チューは駄目だからっ！！」

相変わらず面白いなあ……そんな事を思いながら見物する秋嘉。

「は？なに？私とチューできないなら、この人にのり移って、大人の階段昇らせる！？？おい！！たのむから止めて！すいませんでした！チューするから！チューするからってオイイイ！！なに秋嘉にのり移ろうとしてんだああ！」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2387b/>

呪いの本は子供の玩具♪

2010年10月11日20時23分発行